

平成29年度
文化事業に関する評価報告書

平成30年9月

尼崎市

I 評価について

1. 趣旨

文化芸術基本法では「地方公共団体は、基本理念にのっとり、文化芸術に関し、国との連携を図りつつ、自主的かつ主体的に、その地域の特性に応じた施策を策定し、及び実施する責務を有する。」と定められています。

こうしたなか、尼崎市では本市の最上位計画にあたる「尼崎市総合計画」の部門計画として策定した尼崎市文化ビジョン（以下「ビジョン」という。）において「本ビジョン推進にあたっては市は責任を持って文化芸術振興の役割を担う。」「文化の担い手である市民が主体的に活動を展開していくため、市は情報提供・相談などのサポートを行う。」と定めており、本市における文化の位置付けや責務を明確に示しております。

このビジョンを着実に推進するためには、文化事業の進行状況を管理し、必要に応じて改善していくことが重要です。そこで、行政評価と行政運営を連動し、文化施策・事業のPDCAサイクルを運用していくため、本市が実施する文化事業の評価を行います。

2. 評価の対象等

ビジョンでは文化を広義に捉えていますが、実効性のある取組を示すため、芸術分野を中心とした狭義の文化を主に対象とし、次の項目に全て該当する事業を評価対象事業とします。

- (1) 市の予算により実施されている事業
- (2) 継続性のある事業
- (3) 狭義の文化（文化芸術基本法第8条から第14条までの項目（出版物、レコードを除く））（下表のとおり）に関連する事業

芸術	文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踊
メディア芸術	映画、漫画、アニメーション、コンピュータその他の電子機器等を利用した芸術
伝統芸能	雅楽、能楽、文楽、歌舞伎、組踊その他の我が国古来の伝統的な芸能
芸能	講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱その他の芸能
生活文化	茶道、華道、書道、食文化その他の生活に係る文化
国民娯楽	囲碁、将棋その他の国民的娯楽
文化財等	有形及び無形の文化財並びにその保存、修復、防災対策、公開等への支援
地域における文化芸術	各地域における文化芸術の公演、展示、芸術祭等への支援、地域固有の伝統芸能及び民俗芸能（地域の人々によって行われる民俗的な芸能をいう。）

なお、公益財団法人尼崎市文化振興財団（以下、「文化振興財団」という。）についてはビジョンの中核と位置付けているため、市の補助金により実施している事業を基本に評価を行います。

3. 評価の方法

文化の効果を評価するにあたっては、定量的な評価や単年度ごとの指標による判断に留まることのないよう、次の2つの異なる手法により、本市の文化事業がビジョンの取組の柱に沿った内容になっているか定量的視点と定性的視点から併せて評価を行います。

○本市の取組の柱

- (1) 若い人の夢とチャレンジを応援する
- (2) 育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる
- (3) 市民の芸術体験を支える

① 現地視察を踏まえた評価

ビジョンの取組の3つ柱について、毎年度、それぞれ1事業ずつ選出した3事業を対象として、文化・芸術に造詣の深い専門家等による現地視察での意見を踏まえた評価を行う。

② 個別事業に係る評価

対象の全ての事業について、達成年度の目標値及びビジョンの取組の柱に沿った事業展開を実施できたかという2つの項目を組み合わせることで個別事業を評価する。

評価	目標値に対する評価 (定量評価)	取組の柱に沿った事業展開 (定性評価)
A	目標以上の達成ができた。 (100%より大きい)	実施できた。
B	概ね達成できた。 (80%以上100%)	実施できた。
C	概ね達成できた。 (80%以上100%)	実施できなかった。
	達成できていない。 (80%未満)	実施できた。
D	達成できていない。 (80%未満)	実施できなかった。



II 平成29年度事業評価（現地視察を踏まえた評価）

1. 若い人の夢とチャレンジを応援する

将来を担っていく若い人の夢を後押しし、飛躍のきっかけとなる機会を提供することで、尼崎が夢とチャレンジを応援するまちであるというメッセージを発信し、そのメッセージが届くことで、新しいもの・ことにチャレンジする人が集まってきます。ビジョンでは取組の柱の最上位に位置づけ、この取組を推進していくこととしております。

【あまらぶアートラボ運営事業】

平成27年度から、若手アーティストの発表・創作の場としてあまらぶアートラボ運営事業を実施しており、若い人の夢やチャレンジを通じて、子どもたちを始めとする市民が芸術に気軽に触れる機会の提供を行っています。

	<p>目的</p> <p>若手アーティストの発表・創作の場として活用することで、若い人の夢やチャレンジを通じて、子どもたちを始めとする市民が芸術に気軽に触れる機会を提供すること。</p>
	<p>実施内容</p> <p>若手アーティストによる展覧会やワークショップ、トークイベントを開催する。</p>
	<p>実施期間</p> <p>40日前後の開催期間で年5回開催</p>
	<p>目標</p> <p>3,300人（入場者数）</p>
	<p>実績</p> <p>3,133人</p>
	<p>効果</p> <p>出展作家が、国内外で活躍している人も増えていることから、尼崎市が夢を応援するまちというメッセージの発信にも寄与している。</p>

【評価・今後の課題】

現地視察では「表現者の次世代の育成、表現者への発表の場の提供、オーディエンスの育成や、地元大学生との協働、ワークショップやトークなどをさまざまな工夫をもって幅広い市民のアクセスを可能なものにする取り組みなど、事業の内容や目的が取組の柱に沿ったものである。」という意見がありました。また、「若手のアーティストにとっては、一般のギャラリーよりは規模が大きく、ステップアップをしてゆく段階において、よい規模感の施設である。トークの相手の選出などにも工夫がなされ、アーティストのポテンシャルを引き出し育成する観点がある。」という育成支援の面においても期待できるという意見もありました。



事業を継続することでリピーターが増え、裾野が広がる可能性はがあり、文化芸術振興に寄与することが見込める事業であることから、今後も継続して事業を続けていくことで目指す姿の実現につなげていきます。

2. 育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる

本市には長い歴史とともに育まれてきた歴史資源や長年継承されてきた伝統芸能や祭りが残っています。これらについて学び・楽しみながら、それが守り伝え活かされていくよう、歴史資源等に関連した事業を実施し、歴史・伝統・文化を継承し、発展させていきます。

【文楽・歌舞伎公演】

本市では1年ごとに伝統芸能である文楽公演と歌舞伎公演を実施しており、平成29年度は文楽公演を実施しました。文楽公演は低廉な価格で、アルカイクホール・オクトにて1日2回、昼と夜で異なった演目を実施しております。平成10年より市で実施していたものを、文化振興事業を専門的な知識とノウハウの活用により、効果的・効率的な事務の執行が図れる尼崎市文化振興財団に移管し、財団に市補助金を拠出し、事業を継続してきました。

	<table border="1"> <tr> <td>目的</td> <td>伝統芸能である人形浄瑠璃、歌舞伎を通じて近松芸術への理解を深める。</td> </tr> </table>	目的	伝統芸能である人形浄瑠璃、歌舞伎を通じて近松芸術への理解を深める。
目的	伝統芸能である人形浄瑠璃、歌舞伎を通じて近松芸術への理解を深める。		
	<table border="1"> <tr> <td>実施内容</td> <td> 昼の部：桂川連理柵（六角堂の段、帯屋の段、道行朧の桂川） 夜の部：曾根崎心中（生玉社前の段、天満屋の段、天神森の段） 文楽・歌舞伎は1年毎に開催 </td> </tr> </table>	実施内容	昼の部：桂川連理柵（六角堂の段、帯屋の段、道行朧の桂川） 夜の部：曾根崎心中（生玉社前の段、天満屋の段、天神森の段） 文楽・歌舞伎は1年毎に開催
実施内容	昼の部：桂川連理柵（六角堂の段、帯屋の段、道行朧の桂川） 夜の部：曾根崎心中（生玉社前の段、天満屋の段、天神森の段） 文楽・歌舞伎は1年毎に開催		
	<table border="1"> <tr> <td>実施期間</td> <td>年1回</td> </tr> </table>	実施期間	年1回
実施期間	年1回		
	<table border="1"> <tr> <td>目標</td> <td>750人（入場者数）</td> </tr> </table>	目標	750人（入場者数）
目標	750人（入場者数）		
	<table border="1"> <tr> <td>実績</td> <td>703人</td> </tr> </table>	実績	703人
実績	703人		
	<table border="1"> <tr> <td>効果</td> <td>継続的に実施することで、伝統芸能の保存、継承に寄与し、尼崎市のイメージを向上させる。</td> </tr> </table>	効果	継続的に実施することで、伝統芸能の保存、継承に寄与し、尼崎市のイメージを向上させる。
効果	継続的に実施することで、伝統芸能の保存、継承に寄与し、尼崎市のイメージを向上させる。		

【評価・今後の課題】


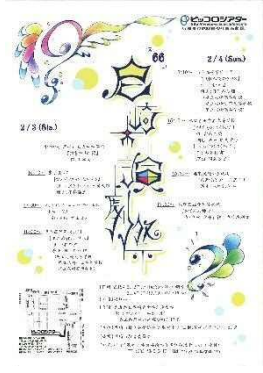
現地視察では「ユネスコの無形文化遺産に指定されてということで、歴史ある文化活動だと判断でき、伝統芸能を継承・発展させるという点で、取組の柱に沿っていると思われる。」という意見がありました。一方で、「入場者の年齢層が高く、若い世代への来場の取込みの必要性が課題である。」という指摘もあり、若い世代が興味を持って来場することで、伝統芸能の継承・継続につながるため、今後その課題に向けた取り組みが必要です。

3. 市民の芸術体験を支える

文化のつくり手・担い手が育っていくためには、市民が芸術に触れる機会を増やす必要があるため、芸術を「特別なもの」としてではなく、日々の暮らしの中で、呼吸をするように触れ合い、楽しめるような尼崎市を目指すことで、市民のみならず、市外の多くの人たちを惹きつけ、交流を深めていきます。

【尼崎市演劇祭】

昭和26年から長期にわたり継続してきている演劇祭は市内の演劇団体の発表の場になっており、ピッコロシアターにて年1回開催しています。行政が携わる演劇祭としては日本で最も歴史が長く、市内外に誇れるものとなっています。

	<table border="1"> <tr> <td>目的</td> <td>演劇団体に発表の場を提供し、一堂に会することにより相互交流と研鑽を図り、演劇を通じて文化の向上を図る。</td> </tr> </table>	目的	演劇団体に発表の場を提供し、一堂に会することにより相互交流と研鑽を図り、演劇を通じて文化の向上を図る。								
目的	演劇団体に発表の場を提供し、一堂に会することにより相互交流と研鑽を図り、演劇を通じて文化の向上を図る。										
	<table border="1"> <tr> <td>実施内容</td> <td>尼崎市舞台芸術協会加盟団体による演劇発表会を実施する。</td> </tr> <tr> <td>実施期間</td> <td>年1回 2日</td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>8団体（出演者数）</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>8団体</td> </tr> <tr> <td>効果</td> <td>青少年が演劇を自ら考えつくり出すことを通じて、その成長を促す。文化のベースに触れる貴重な機会を提供できる。</td> </tr> </table>	実施内容	尼崎市舞台芸術協会加盟団体による演劇発表会を実施する。	実施期間	年1回 2日	目標	8団体（出演者数）	実績	8団体	効果	青少年が演劇を自ら考えつくり出すことを通じて、その成長を促す。文化のベースに触れる貴重な機会を提供できる。
実施内容	尼崎市舞台芸術協会加盟団体による演劇発表会を実施する。										
実施期間	年1回 2日										
目標	8団体（出演者数）										
実績	8団体										
効果	青少年が演劇を自ら考えつくり出すことを通じて、その成長を促す。文化のベースに触れる貴重な機会を提供できる。										

【評価・今後の課題】

現地視察では、「本事業により文化芸術の振興の前段階として、青少年の自ら考えつくり出す子どもの成長を助ける場面、舞台として評価できる。文化のベースに触れる機会として重要である。」と、波及効果について意見がありました。当該事業により文化芸術の振興に寄与することが見込まれると考えられます。また、出演者は市内高等学校演劇部等が中心の若い世代であり、近年出演者を若者にシフトしたことにより、子どもが鑑賞・創作する機会として若い人の夢とチャレンジを応援する取組にもつながります。一方、課題として、歴史が長いことも含め、演劇祭について十分な周知がされておらず、有効な対策と広報について検討が必要であると考えられます。

Ⅲ 個別事業評価

平成29年度に実施した評価対象の文化事業は28事業であり、それぞれの事業評価は下表のとおりでした。なお、個別の詳細については別紙のとおりです。

取組の柱	評価	A	B	C	D	合計
①若い人の夢とチャレンジを応援する		0	3	2	0	5
②育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる		2	2	9	0	13
③市民の芸術体験を支える		0	4	6	0	10
合 計		2	9	17	0	28

Ⅳ 総括評価

平成29年2月にビジョンを策定し、市が責任を持って市民のための文化芸術振興の役割を担うため、文化事業に関する評価の仕組みを構築しました。今回はこの評価を実施する初年度であり、この評価を含めた改善のプロセスは本市の文化振興にとって大きな進展であると考えています。

この評価を実施するにあたり、個別事業評価によって、これまで実施してきた様々な文化事業をビジョンの取組の柱ごとに、体系的に可視化することで、本市の文化事業全体の現状を把握しました。特に、文化振興財団に移管した事業が多くを占めており、ビジョンを推進していくために、その中核である文化振興財団と市の相互連携が必要であることを再確認しました。

また、「若い人の夢とチャレンジを応援する」という取組の柱を推進する事業として5つの事業を実施しましたが、このひとつめの柱の事業は他の2本の柱に関係する事業に比べて事業数が少ないことから、今後、このひとつめの柱を力強く推進していくために、新規事業を企画する際は、若い人の夢とチャレンジを応援する内容に沿った事業を展開していく必要があると考えております。

そして、個別事業については実態をより詳細に把握する必要があることから、3つの事業の取組内容について実地に視察・確認を行い、取組の柱との整合性、独創性、育成支援などの視点により、事業が有効かつ適切に実施されているかを総合的に検証しました。

あまらぶアトラボ運営事業は、若手アーティストの夢やチャレンジを応援する場と市民に気軽に芸術に触れていただく場を提供することで、本市が夢を応援するまちであるというメッセージの発信に寄与すると考えられます。また、文楽公演はユネスコ無形文化遺産である伝統芸能を安価で市民に提供するとともに、人形浄瑠璃を通じて近松芸術の理解を深め、シビックプライドの醸成につながると考えられます。そして、演劇祭は中高生の演劇部の生徒や劇団員が自らプロデュースして、受付や舞台設営などを主体的に実施し、

青少年の成長を図る教育的な視点で意義のある事業であり、来場している学生を中心とした若い人たちが文化に触れる貴重な機会として位置付けられています。これらのことから、いずれの事業もビジョンの柱に沿った事業であるとともに、それぞれの事業を継続的に実施することで、様々な波及効果が期待できるという結論に至りました。

一方、改善すべき方向性などについても検証した結果、事業の周知が十分とは言えず、個別評価表において広報の開拓や、周知の工夫が課題となっていることがわかりました。広く市民に事業を知っていただくために、効果的な広報の検証が必要であると考えられます。今後、この課題解決に向け、アンケートなどの分析を継続的に行うことで、市民のニーズを把握するとともに、より効果的な広報の方法を検証していくこととします。また、利用者、出演者、関連団体などにも広げて意見を求めていくことで、より開かれた改革改善を図り、評価を含めた改善の PDCA サイクルを回すことで、本市が目指すまちの姿の実現につなげていきます。

以 上

事業名称	課名	取組の柱	事業概要							経費				評価指標				実績			実施に当たり工夫したこと			所管課評価		アンケート	改善点等
			事業開始年度	目的	実施内容	対象世代(種向け)	実施期間	実施回数(回)	参加人数(人)	H29事業費(単位:千円)	事業に係る人件費(単位:千円)	指標名	単位	目標	達成年度	H27	H28	H29	財源獲得の努力	広報	協働	評価	評価の理由	課題	今後の方向性		
1	尼崎落研選手権	若い人の夢とチャレンジを応援する 市民の芸術体験を支える	平成27年度	地域資源である「落語」を本市の魅力として発信するとともに、落語を発表する場を提供して若い人のチャレンジを応援する。	大学生向けの落研選手権を開催する。	大学生(専門学校、高専、大学院含む)	12月10日	年1回	170	428	1,750	出場枚数	枚	14	H29	10	11	13	—	・市報 ・市HP ・毎日新聞 ・尼崎経済新聞 ・尼崎市FB ・あまらぶFB ・チラシ ・ポスター	—	B	昨年度より参加枚が広がり、関東や九州からの参加が増えたことから、地域資源である「落語」を広めることができ、若い人がチャレンジできる環境を提供した。	選手権に参加した学生が、市内から訪れる人の半分以下であり、市民芸術体験に気軽になれることができない。若い人がチャレンジできる環境を必要とする。	選手権の受賞大学を講師として、市内小学校等で落語の授業を行う。	93%	
2	あまらぶアトラポ運営事業	若い人の夢とチャレンジを応援する 市民の芸術体験を支える	平成27年度	若手アーティストの発表・創作の場として活用することで、若い人の夢やチャレンジを通して、子どもたちを始めとする市民が芸術に気軽に触れること。	若手アーティストによる展覧会やワークショップ、トークイベントを開催する。	全世代	通年	年5回(展覧会)	3,133	5,443	12,365	入場者数	人	3,300	H34	1,708	3,019	3,133	芸術文化振興基金助成	・市報 ・市HP ・新聞 ・雑誌 ・ケーブルテレビ ・チラシ	園田学園女子大学(大学OOC事業) ※第4回目の展覧会にて	B	A-Labの出展作家で、国内外で活躍している人も増えていることから、尼崎市が夢を応援する場というイメージの発信に寄与している。	市外から訪れる人の割合が市内から訪れる人の半分以下であり、市民芸術体験に気軽になれることができない。若い人がチャレンジできる環境を必要とする。	若手アーティストの発表・創作の場として活用することで、若い人の夢やチャレンジを通して、子どもたちを始めとする市民が芸術に気軽に触れることのできる環境を作る。	未実施	
3	近松賞	若い人の夢とチャレンジを応援する 市民の芸術体験を支える	平成13年度	近松の功績を顕彰するとともに新たな演劇作品の発掘、次代の演劇界を担う優れた劇作家の育成を目的に実施する。	戯曲を募集し、審査を通過した作品を対象に選考会を実施し、大賞を決定する。また、大賞作品については、準備期間を設けて上演する。	全世代	(募集)8月1日～10月31日(選考会)平成30年3月15日	おおよそ4年に1回	60	11,807	—	応募作品数	作品	200	H29	—	—	62	—	・市報 ・財団HP ・チラシ ・パンフレット ・DM ・雑誌広告 ・ネット広告	—	C	毎年実施する事業でないことから応募者に十分浸透しておらず、今年度については、告知の時期が例年より遅く募集期間が短かったため、応募作品が大幅に減った。第6回(平成28年度)応募作品174点。	告知、周知方法(掲載媒体、時期など)を見直す必要がある。	近松賞を優れた劇作家の登竜門として認知してもらい、大賞作品の上演のPRを促進するとともに、尼崎市から新たな劇作家が生まれるイメージを根付かせる。	—	所管課評価のとおり、告知、周知方法について具体的な方策を検討が必要である。
4	新人お笑い尼崎大賞	若い人の夢とチャレンジを応援する	平成12年度	尼崎から21世紀に広く全国に羽ばたいた芸人を発掘かつ育成し、このまちの文化の発展と向上に寄与することを目的とする。	尼崎から21世紀に広く全国に羽ばたいた芸人を発掘かつ育成するため、コンクールを開催する。	全世代	8月11日～9月18日	年1回	834(漫才205組落語47名エンタリ)	2,373	—	エントリー数	組	1,130	H29	1,030	1,130	834	協賛団体の新規確保、財団HP入場料徴収	・市報 ・財団HP ・チラシ	—	C	阪神電鉄の事業撤退(落語の部のみ)や協賛金の減に伴い、収支均衡を図るべく、外部経費の減や入場料徴収など工夫しながら事業展開を行った。エントリー数の減などが見受けられるが、新しい顔ぶれが毎年見られることから、この事業が広く浸透していると考えられる。	事業実施に必要な財源の確保及び周知方法	若い方への参加呼びかけと財源を確保する必要がある。	未実施	財源の確保については今後、財団への補助金のあり方検討のなかでを整理していくが、現状においても実現可能な工夫に取り組んでいくことが望ましい。
5	少年音楽隊事業	若い人の夢とチャレンジを応援する	昭和37年度	豊かな情操と健やかな心を持つ子どもを育成するとともに、本市の音楽文化の向上に寄与する。	合唱隊、吹奏楽隊、バンド隊、ドラム隊、トランペット隊、ドラム隊の5隊で編成し、定期演奏会の実施の他、地域のイベントにも多数出演している。	青少年(小学校5-6年生等)	通年	—	250(H29隊員数)	13,025	10,528	隊員数	人	270	H32	237	259	250	楽器の寄付を毎年受け付けており、公費による楽器購入は行っていない。	・市報 ・市HP ・チラシ(市内小学校、公共施設等) ・ポスター ・小学校校長会	—	B	平成29年度末の隊員数は250人となっており、目標水準に概ね到達している。(達成率92.6%) こうした少年音楽隊の活動を通じて、青少年の健全育成が図られ、音楽隊自体の認知度も上がり、隊員数の増加にもつながっていくものと考えている。	平成31年秋頃に青少年センターがひと映きプラザ(旧聖トマス大学)に移転することに伴い、複数の隊が練習拠点を同施設に移すことから、引き続き良好な練習環境を整えるとともに、移転を機に隊員数が減少することのないよう活動内容の一層の周知を図ること。	当該事業は、隊員の保護者や教育委員会との密接な連携が不可欠であり、今後さらに主体と連携を図りながら事業を推進していく。	—	
6	白髪一雄記念堂	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	平成25年度	尼崎市出身であり世界的に評価された画家白髪一雄の作品を展示し、功績を紹介する。	①第9回展示「画学生時代から画家白髪一雄」②第10回展示「寄贈・寄託作品選」	全世代	①4月29日～9月10日、②10月7日～3月18日	年2回	3,341 ①1,538 ②1,803	6,255	—	入場者数	人	3,468	H29	2,334	2,968	3,341	—	・市報 ・HP ・新聞折り込み ・チラシ	—	C	来場者を増やす方策として、美術ホールの来場者に積極的に記念堂への来場を促すことにより、一定の効果があったが、自入場者数には達しなかった。	マンネリ化を防ぎながら、限られたスペースで来場者に満足してもらえる展示を行い、リピーターを増やす。	ギャラリートークやホームページによる紹介内容を充実させるなど、作品展示に付加できる魅力を工夫して行く。	86%	他の展示などを見に来られた方に、その流れで白髪一雄を知っていたかどうかを来場後アンケートで確認し、所管課評価の改善につなげる取組を進めていくことが妥当である。
7	尼崎新能・富松新能	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	昭和55年度(富松は平成8年度から補助)	能楽を身近でかつ、気軽に鑑賞できる機会を提供することにより、日本の伝統芸能への関心を高揚し、市民文化の振興を図る。	尼崎新能:能楽「土蜘蛛」、富松新能:能楽「田村」、狂言「鞍馬参」	全世代	(尼崎)5月20日(富松)7月26日	各年1回	1,500	3,685	—	参加人数	人	1,600	H29	(尼崎)500(富松)1,000	(尼崎)700(富松)中止	(尼崎)800(富松)700	協賛金	・市報 ・コミュニティ ・掲示板 ・財団HP ・チラシ、ポスター	地元市民と協力	B	目標指数である参加人数は、目標指数に達していないが、年2回の新能は、市外からの問い合わせも多く、尼崎の文化の発信に大きく寄与している。	出演者の高齢化	引き続き伝統芸能の継承していく。	未実施	
8	近松祭	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	昭和11年度	近松門左衛門の功績を顕彰する事を目的として、近松記念館で近松をテーマとする演奏等の行事を行う。	人形浄瑠璃、浪曲、人形浄瑠璃、浪曲、狂言、落語、語りなど近松門左衛門ゆかりの演芸等上演する。	全世代	10月22日	年1回	400	1,368	—	参加人数	人	600	H29	570	600	400	協賛金	・市報 ・財団HP ・掲示板 ・阪急電鉄沿線 ・ポスター ・チラシ	地元市民と協力	C	観客数も毎年会場一杯に集客しており地域に根付いた行事である。しかしながら今年度は台風の影響により目標値を下回った。	近松協賛事業実行委員会役員の高齢化と財源確保	若い方への参加呼びかけと財源の確保	90%	財源の確保については今後、財団への補助金のあり方検討のなかでを整理していくが、若い世代の関心の喚起について具体的な方策の検討が必要ではないかと

事業名称	課名	取組の柱	事業開始年度	目的	事業概要 実施内容	対象世代 (種別)	実施期間	実施回数 (回)	参加人数 (人)	経費		評価指標				実績			実施に当たり工夫したこと			所管課評価		アンケート				
										H29 事業費 (単位:千 円)	事業に係 る人件費 (単位:千 円)	指標名	単位	目標	達成 年度	H27	H28	H29	財源獲 得の努 力	広報	協働	評価	評価の理由	課題	今後の方向性	満足と答 えた人の割合	改善点等	
9	近松ナウ	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	昭和61年度	市制70周年(1986年)を契機に、「近松のまち・あまがさき」を目指して、多様な文化事業を展開。その一環として「近松を現代に繋げる」をコンセプトとして実施。	近松の世界を現代に繋げよう。近松をテーマにした各種の展示・イベントでPRすることにより、多くの方に親賞、ご参加いただけるように努めている。	全世代	9月～3月	事業数 15事業	57,372	1,368	—	事業本数	事業	21	H29	24	21	15	—	・市報 ・財団HP ・チラシ	民間の協賛団体の確保に努めている。	C	目標指標としている事業数は目標値に達しなかった。市外より、新たな協賛団体の確保できたことは、情報発信の周知の方法に工夫が必要と思われる。	事業数が昨年の21事業から15事業に減少しており、協賛団体の確保のため、周知の方法に工夫が必要と思われる。	近松を顕彰し、本市の文化のシンボルとして近松文化の創造を図り、市内外へ向けた近松の情報発信に努める。	—	市内外への近松の情報発信について、具体的な方策を検討が必要である。	
10	文楽・歌舞伎公演	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	昭和61年度	伝統芸能である人形浄瑠璃、歌舞伎を通じて近松芸術への理解を深める。	文楽公演 座の部・桂川連理橋(六角堂の段、帯屋の段)、運行座の桂川) 座の部、曾根崎心中(生玉まじりの段、天満屋の段、天神森の段) 文楽・歌舞伎は1年毎に開催	小学生以上	3月20日	年1回	703	2,376	—	参加人数	人	(文楽) 750 (歌舞伎) 1,900	H29 (文楽) 645 (歌舞伎) 1,348	(文楽) 703	—	・市報 ・財団HP ・掲示板 ・ポスター、チラシ ・市の配布 ・新聞広告	—	C	目標指標である参加人数は、目標値に達していないが、伝統芸能の保存、継承の観点から、継続的に実施することは、重要な文化施策の一つとして評価できる。	継続的な宣伝・広報の開拓	次世代の若者に関心を持ってもらい、伝統芸能の保存、継承を担う。	86%	入場者数増加に向けたさらなる取り組みが必要。単に安価な入場料金にしても、意味が無く、若い世代が興味を持って入場できるような工夫が必要ではないか。			
11	あまがさき歴史音楽祭	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	平成27年度	歴史的建造物に触れ音楽を通じて、市のイメージアップや地域への愛着・誇り・シンポジブライドの醸成を目指す。	歴史的建造物を活用した市内外の音楽祭を実施する。	全世代	10月22日	年1回	400	—	66	来場者数	人	2,000	H30	3,000	1,000	400	クラウドファンディング	・市報 ・市HP ・FB ・チラシ	実行委員会による運営	C	当日は台風による悪天候の為、予定していた座の部の音楽フェスティバルは中止となった。観客数も見込みより少なかった。	旧居崎警察署は老朽化により使用出来ない状況が続いており、平成30年度には文化財収蔵庫も工事に入ることから、今後の開催場の選定が必要である。	再建が進む尾崎城を契機に、城址公園での開催も視野に入れ、より市のイメージアップや地域への愛着・誇り・シンポジブライドの醸成を目指す。	悪天候のため来場者数は目標に達していないが、実行委員会形式でクラウドファンディングによる財源獲得努力により低予算で事業を実施していることは評価できる。	89%	
12	文化財収蔵庫企画展示事業	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	平成28年度	文化財収蔵庫が所蔵する資料を広く公開することにより、市民や子供たちが本市の歴史や文化財に関心を持つとともに、本市のシンポジブレーションにも貢献する。	文化財収蔵庫が所蔵する資料を活用した企画展、文化財収蔵庫企画展示室で開催する。	全世代	通年	年6回	11,836	731	2,004	展示観覧者数	人	20,000	H34	10,295	11,779	11,836	—	・市報 ・市HP ・ポスター ・チラシ ・新聞各紙 ・テレビ ・ラジオ	—	C	評価指標は新施設開館後を想定し、高めの設定となっているので、指標に対する達成率は中位に止まっている。収蔵資料を広く公開するという取組の柱に沿った事業は実施できており、加えて新聞等のマスコミにも多数取り上げられ、本市のシンポジブレーションにも貢献できているため。	文化財収蔵庫は平成30年度後半からリニューアル工事を行い、平成32年度に新施設がオープンする予定となっており、新施設ではさらに充実した展示活動を実施している。	文化財収蔵庫はリニューアル工事を進め、平成32年度に新施設がオープンする予定となっており、新施設ではさらに充実した展示活動を実施している。	新施設開館後の高い目標により評価となっているが、観覧者は着実に伸びていることは評価できる。新施設のオープンに向け十分な準備が必要である。	未実施	
13	歴史遺産を活かしたまちの魅力再発見事業	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	平成26年度	まちづくりの核となる歴史遺産を活かし、市民との協働のまちづくりを展開し、情報発信することで、市民の地域への愛着を醸成し、尾崎の魅力を高める。	富松城跡の保存・活用を市民と協働で進めるとともに、富松城跡の歴史的価値や歴史遺産としての活用策等について考えるシンポジウムを開催する。	全世代	12月2日	年1回	208	126	1,353	事業参加者数	人	100	H34	160	101	208	—	・市報 ・市HP ・ポスター ・チラシ ・販売新聞	富松城跡を活かすまちづくり委員会と連携し、学校・PTA等の協力も得て実施した。	A	平成29年度に実施したシンポジウムには208人の参加者があり、アンケート調査での満足度も大変高かった。また、平成28年度に市が取得した富松城跡の保存と活用を市民と共に進め、歴史遺産としての価値を多くの方に知っていただくという取組の柱に沿った事業も実施できているため。	富松城跡の歴史的・文化的価値を広く市内外に発信に努めるとともに、富松城跡の保存・活用の方策の検討を市民とともに進め、地域資源としてまっすぐに活用していく必要がある。	これまでは、富松城跡を広く周知するための単発的な事業を行ってきた。今後は、地域住民や学校との連携に深め、富松城跡を地域資源として保存・活用していくための取組を進める。	93%		
14	歴史資料公開活用事業	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	平成17年度	教育委員会が行ってきた歴史資料等の収集の成果を市民に還元し、本市が歴史豊かな文化都市であることPRし、本市のイメージアップに貢献する。	文化財収蔵庫が所蔵する歴史資料・美術工芸資料等を活用した展示会を、尾信会館3階展示室で開催する。	全世代	10月7日 ～ 11月12日	年1回	885	414	3,262	展示観覧者数	人	1,500	H31	1,102	1,302	885	—	・市報 ・市HP ・ポスター ・チラシ ・神戸新聞	—	C	平成29年度は、31日間の会期のうち11日間が雨で、2連連続で週末に台風が接近するなど天候に恵まれず、加えて、急な総選挙等によりマスコミの反応も鈍かったため観覧者数は予想外に伸びなかったが、文化財収蔵庫では展示できない美術工芸資料等を広く公開するという取組の柱に沿った事業は実施できているため。	文化財収蔵庫には屏風等の大型資料を展示できる展示ケース等の設備がないことから、他施設を借用していたこと、他施設を借用して資料の展示公開に努めてきた。しかし、借用施設では展示準備や公開期間等の制約があり、主体的な事業実施は困難である。	文化財収蔵庫はリニューアル工事を進め、平成32年度に新施設がオープンする予定となっている。新施設ではさらに充実した展示活動を実施している。	平成32年度からの新施設が完成するとともに主体的な事業展開に期待する。新規オープン時にも大きな広報の手段を検討し、強化する必要がある。	未実施	
15	わくわく体験ミュージアム事業	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	平成13年度	地域の歴史に関わる各種体験学習活動を始めることにより、市民や児童生徒が本市の歴史・文化財に関心を持ち、地域に根ざした文化活動の促進に貢献する。	・市民向けの歴史講座の開催 ・学校教育と連携した児童生徒向けの歴史や昔の暮らしに関する学習会の開催 ・体験を主とする夏休みの学習会の開催 ・学芸員と協働で体験学習活動を行う市民ボランティア養成	全世代	通年	年50回	3,780	36	3,739	事業参加者数	人	4,500	H34	4,093	3,684	3,780	—	・市報 ・市HP ・ポスター ・チラシ	一部事業は、れきし体験学習ボランティアと協働で実施している。	B	評価指標をほぼ達成できており、市民や児童生徒を対象とした多様な学習活動や学校教育と連携した各種学習活動、さらには市民ボランティアとの協働による事業実施という取組の柱に沿った事業が実施できているため。	文化財収蔵庫は平成30年度後半からリニューアル工事を進め、平成32年度に新施設がオープンする予定となっている。新施設ではさらに充実した展示活動を実施している。	博物館にとっては、展示と並んで重要な事業であり、直接、市民や児童生徒と繋がっている事業でもある。加えて、新施設では教育普及事業として実施できることから、本事業はより多量で、より市民・児童生徒の学習意欲やニーズに応えた内容へと高めていく。	未実施		
16	古代のくらし体験学習事業	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	昭和46年度	出土遺物の収蔵・展示による文化財の啓発にとどまらず、発祥文化を身近に感じてもらい、理解するため、古代のくらしを体験できる事業を展開する。弥生時代の人々の生活や技術・文化の発展に対する認識を新たにし、市民の歴史学習を支援するとともに、文化財に対する関心を高める。	・勾玉をつくろう(年3回) ・石の織をつくってとほそう ・絹織をつくろう(2日間) ・弥生土器をつくろう(2日間)	全世代	通年	年13回	179	104	2,415	参加者数	人	200	H34	735	333	179	—	・市報 ・市HP ・ポスター ・チラシ ・あまなび ・まるごとマガザキ ・ぼだ ・サンクエイピング ・kissPress	市民ボランティアとの共催事業として実施している。	C	広報活動は発信媒体を拡充させたが、実施事業の減により目標値に達せず。前年比で154人減となった一回ごとの実施内容については参加者から高い評価を得ており、学習機会の提供に寄与している。	実施する学芸員の入れかわりによって実施がむずかしくなり、事業を見直し、数を減らしたため、全体として参加者数が減少した。このため、これからの事業報告をもとに、マニュアルを作成し、それとともに事業内容を深化させていく必要がある。	事業内容をマニュアル化し、サポートが自主的に実施できるような体制を整えたい。	高い満足度であるが、参加者数が大幅に減少しているため、抜本的な改善が必要である。		

事業名称	課名	取組の柱	事業開始年度	事業概要			経費				評価指標				実績				実施に当たり工夫したこと				所管課評価				アンケート	
				目的	実施内容	対象世代(縦向け)	実施期間	実施回数(回)	参加人数(人)	H29事業費(単位:千円)	事業に係る人件費(単位:千円)	指標名	単位	目標	達成年度	H27	H28	H29	財源獲得の努力	広報	協働	評価	評価の理由	課題	今後の方向性	満足と答えた人の割合	改善点等	
17	田能遺跡サポーター養成事業	田能資料館担当課	平成28年度	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	「田能遺跡サポーター」養成講座を実施し、その知識をもとにボランティアとして、復元住居の修復及び事業のサポート等を行う。「田能遺跡サポーター」を養成し、協働の取組を推進する。	全世代	通年	年72回	195	500	1,836	参加証へ人数	人	1,500	H34	189	532	195	—	・市報 ・市HP ・チラシ	—	—	C	実施する事業内容の変更等もあり、前年度より参加人数が減少した。	ボランティアの参加人数が減少している。ボランティア活動のさらなる活性化を図り、意欲的に取り組める工夫が必要である。	ボランティアがさらに円滑に活動に参加できるように体制を整備してゆく必要がある。	—	実績の推移からは、目標の達成は難しいと思われる。再度事業内容について見直しが必要である。
18	特別展・企画展事業	田能資料館担当課	特別展・昭和46年度企画展・平成15年度	育まれてきた歴史・伝統・文化を継承・発展させる	特別展「昭和46年度企画展」 「田能遺跡」の関連性について考察する。弥生時代の人々の生活や技術・文化の発展を探り、弥生文化の重要性について周知を図ることにより、文化財保護への関心を高める。	全世代	(前期企画展)5月2日～9月3日 (特別展)10月7日～12月17日	年3回	28,782	672	4,195	観覧者数	人	28,000	H34	29,625	26,003	28,782	—	・市報 ・市HP ・ポスター ・チラシ ・あまなび ・ラジオ関西 ・ばど ・サンケイリビング ・kissPress	—	—	A	広報活動を広範囲に展開させたことにより、観覧者数は目標指標を達成した。文化財への関心を高めるための工夫を試みている。	観覧者数が伸び悩んでいる。これまで実施できなかった田能遺跡の資料の再整理し、資料の新たな発見と再評価を、それをもとに市内外へ資料館の取組資料の公開、活用を図る工夫を継続する必要がある。	未実施	未実施	
19	ティーンズサポートチケットPR事業	シティプロモーション事業担当	平成25年度	市民の芸術体験を支える 若い人の夢とチャレンジを応援する	尼崎市総合文化センターとピッコロシアターで開催される舞台公演などを10代の皆さんに気軽に観覧し、本物の芸術や舞台などの芸術に触れる機会をつくる。	13～19歳	5月4日～9月20日	年30回	125	137	1,387	応募者数	人	200	H34	91	134	125	—	・市報 ・市HP ・神戸新聞 ・課FB ・チラシ	—	—	C	公演によって応募者数にばらつきがあり、実績は目標値に達していないため。	対象者が10代の若者であるため、人気のある公演(くし工等)と伝統芸能等の応募者に差がみられる。	市外の学校・施設等にも広報の場を広げるほか、グループチケットを導入する等PR方法を工夫していく。	67%	所管課評価のとおり、さらなるPRについて具体的な方策を検討が必要である。
20	美術展事業(補助対象の自主事業)	シティプロモーション事業担当(文化振興財団補助)	昭和49年度	市民の芸術体験を支える	優れた芸術を紹介することにより、市民が芸術文化に対する意識を高め、生活に潤いをもたらす。	全世代	①5月20日～7月9日 ②11月11日～12月24日	年2回	5,109 ①4,306 ②2,803	17,098	—	入場者数	人	6,900	H29	6,708	8,617	5,109	助成金獲得	・市報 ・HP ・新聞折込 ・チラシ等 ・新聞社・ラジオ等取材 ・情報誌・タウン誌掲載 ・インターネット媒体掲載 ・収得電車内吊広告等	—	—	C	目標の入場者数に達していないが、有料入場者が5割を超えた。また、来場者からも満足という評価が高かった。近隣をはじめの遠方から初めて来られる方も多く、当館の認知度も上がり、尼崎から文化芸術を発信することができた。	・補助金減額により、開催に必要な経費よりも努力を行うが、開催本数の現状しんどいと感じていく必要がある。 ・施設等・ハード面が老朽化しているため、作品を展示することへのリスクが年々高くなっている。	・経費の軽減、助成金獲得など収支とも努力を行うが、開催本数の現状しんどいと感じていく必要がある。 ・ハード面については、早急な全体的な修繕等を行う必要がある。	99%	有料入場者が増加していることは、価値を認められたという点、収益性の面や市民へのより文化度の高い展示を提供していく意義から、有料入場者が増加するような事業展開が望ましい。
21	アウトリーチ事業	文化特命担当(文化振興財団補助)	平成24年度	市民の芸術体験を支える	市内の子どもたちが芸術を肌で体験・体感できる場を提供する。美術部門では、身体を使った創作の楽しさを体感する場を提供する。	全世代(小学校高学年児童生徒中心)	6月20日 6月30日 7月28日 8月20日 9月12日 9月13日	年6回	266	3,425	—	実施箇所	箇所(学校・園・公共施設等)	6	H29	5	7	6	助成金獲得	・小学校校長会 ・小学校造形教育研究会	—	—	B	学校からの応募が減少傾向にあるため、公民館・図書館等の希望する館で実施を行い好評であった。	これまで子ども対象の実践を中心としたプログラムを展開してきたが、今後は子ども向けのレクチャーなども展開し対象の幅を広げる。	未実施	未実施	
22	演劇祭	文化特命担当(文化振興財団補助)	昭和26年度	市民の芸術体験を支える 若い人の夢とチャレンジを応援する	演劇団体に発表の場を提供し、一堂に集まることにより相互交流と研鑽を図り、演劇を通じて文化の向上を図る。	全世代	2月3日 2月4日	年1回	(参加)43 (入場)549	939	—	出演者数	団体	8	H29	8	7	8	—	・市報 ・財団HP ・チラシ	—	—	B	本事業の委託先である尼崎市舞台芸術協会も昨今の世代交代・演劇人確保に苦しんでいる中で各団体と協力の上で、開催している。	中心となる演劇人が高齢化となってきたことから、世代交代を進め、さらなる工夫を検討していく必要がある。	若い人が参加できるような環境を作る。	未実施	適切な目標設定や事業実施のあり方について見直しを検討すべき。
23	市展	文化特命担当(文化振興財団補助)	平成23年度	市民の芸術体験を支える	日頃より芸術文化に関心を持っている市民に成果発表の機会を提供し、市民の創作意欲の向上と芸術文化に対する意識の高揚を図る。	全世代	10月7日～10月15日	年1回	(参加)261 (入場)1,512	4,350	—	参加者数、入場者数	人	(参加)265 (入場)1,721	H29	(参加)227 (入場)1,484	(参加)265 (入場)1,721	(参加)261 (入場)1,512	—	・市報 ・財団HP ・チラシ	—	—	C	PR先等を拡充し、一部審査員等の変更なども行ったが、それが結果の数字にあまり反映されていない。	毎年補助金が減額し、事業内容を大きく拡充することからは難しいが、参加者の高齢化やマンネリ化が目立つ中、今後、若い層や新たな参加者の獲得を目指す必要がある。	本事業は他都市でも開催しており、参加者数も広範囲に及んでいることから、今後、新たな特典や分野などを設けることも検討し、内容に工夫を凝らし、市民にとって常に魅力ある事業として開催していく必要がある。	未実施	試行的に実施した改善効果が得られていない状況のため、市民にとって魅力的な事業内容についてさらなる具体的な検討が必要である。
24	ふれあいギャラリー	文化特命担当(文化振興財団補助)	平成10年度	市民の芸術体験を支える	市内で地域に根ざした活発な創作活動を展開している文化団体に対し、発表の場を提供し、市民文化の振興を図る。	全世代	①7月12日～9月18日 ②1月17日～3月12日	年2回	200	2,058	—	参加団体数	クーク(週)	17	H29	17	17	15	—	・市報 ・財団HP ・チラシ	—	—	C	参加団体が少なく、再募集をかけても募集グループ数を満たすことができなかった。	会場をギャラリーから美術ホールに移し、団体別にブース分けして複数の団体を同時に展覧できるようにしたり、ワーキングなどを実施し、団体と団体、あるいは団体と来場者との交流を図る。	未実施	未実施	複数の団体との交流を促す取組は団体同士のコミュニケーションを生み、団体を活性化させることにより文化を推進させることに繋がる。

事業名称	課名	取組の柱	事業概要				経費		評価指標				実績			実施に当たり工夫したこと			所管課評価				アンケート	改善点等				
			事業開始年度	目的	実施内容	対象世代(種向け)	実施期間	実施回数(回)	参加人数(人)	H29事業費(単位:千円)	事業に係る人件費(単位:千円)	指標名	単位	目標	達成年度	H27	H28	H29	財源獲得の努力	広報	協働	評価			評価の理由	課題	今後の方向性	満足と答えた人の割合
25	文化教室事業	文化特命担当(文化振興財団補助)	市民の芸術体験を支える	昭和49年度	開館以来、市民ニーズに応えながら幅広い各種講座を運営し、学習・創作・実践の場を提供する。	洋舞・邦舞コースをはじめとし、音楽、美術から文学や教養に至る多岐の講座を開講している。	全世代	通年	8コース 84講座 (H30.3.31)	1,136	21,145	—	受講者数	人	1,040	H29	1,197	1,011	1,136	—	・市報 ・財団HP ・新聞折込 ・市内掲示板 ・チラシ	—	C	急速な社会情勢の変化の中で、高齢化が課題であり、若年層への魅力ある内容や展開が必要と思われる。	短期講座(夏休み講座等)の充実を図り、伝統文化に触れる機会や創作・ものづくりの楽しさを実感する場を提供する。	未実施	社会情勢が変化するか、事業実施の必要性を含めて検討すべき。	
26	文芸祭	文化特命担当(文化振興財団補助)	市民の芸術体験を支える	平成21年度から移管	市民の文芸活動への参加を促進するとともに、作品研究会を通して文芸の振興と交流を図る。	広く川柳・短歌・俳句の文芸作品を募集し、優秀な作品は文芸作品集に掲載するとともに、文芸祭大会で、作品の研究会を行う。	全世代	6月1日 ～ 7月13日	年1回	980	3,632	—	応募作品数	件	1,337	H29	1,264	1,269	1,327	—	・市報 ・財団HP ・後援新聞 ・リーフレット	—	B	ハガキ代が値上がりしたにもかかわらず応募作品数が前年度よりも増加し、幅広い年齢層からの応募があったことから、全国の文芸愛好者から支持されている安定した事業であると位置づけた。	高齢化に伴う審査員の入れ替えや、表彰式への出席率の低下に対する対策が必要である。	市内の応募者を増やし、表彰式の出席率を上げるが、表彰式の簡素化、短期の見直し等を図る。	—	
27	ホール事業(補助対象の自主事業)	文化特命担当(文化振興財団補助)	市民の芸術体験を支える	昭和57年度	尼崎市民の文化の向上	オペラ、バレエ、クラシック、お笑いなど、幅広いジャンルの事業を実施。また、子ども向けの事業も行っている。	全世代	通年	年34回	18,236	35,242	—	参加人数	人	21,840	H29	18,452	28,002	18,236	助成金獲得	・市報 ・財団HP ・掲示板 ・ポスター、チラシの配布 ・新聞広告	—	B	目標指標の参加人数は概ね達成している。	効率的な宣伝媒体の開拓	財団独自の企画を取り入れオリジナリティある事業展開を行う。	85%	
28	育み・育ち・つなぐ音楽のまち尼崎事業	教職員の学び支援課	市民の芸術体験を支える	平成28年度	児童生徒による多彩な音楽活動を通じて、子ども達を育み、大人も育ち、市民にとって、益着と誇りの持てるまちや未来につながるまちづくりを推進する。	あましんアルカイックホールで小・中・高児童生徒が演奏するコンサートを実施する。	小・中・高等学校の児童生徒・保護者・一般	11月10日	年1回	2,883	6,144	875	H28(12,000人)からの観客者増加率	%	15	H30	—	0	5	—	・市報 ・教育総合センターHP ・神戸新聞 ・FMあまがさき「市政広報ラジオ番組」	協働推進員制度と市政広報協力事業所	C	・今年度の入場者数が、昨年度より600人の増員となっている。 ・小・中・高等学校の児童生徒による多彩な音楽活動を、同日に発表することを通して、小学校から高等学校に至るまで音楽でつながっており、大人になっても音楽を通して愛着をもてる「まちづくり」に寄与することができた。	音楽のまち尼崎コンサートをさらに広めることについては、周知の方法に工夫が必要と思われる。	今後は、出演校の地域の広報活動やマスメディアの活用をし、広く周知を進めていく。	—	さらなるPRについて具体的な方策を検討が必要である。